

清少納言拔草紙

内閣文庫	和書
一八六九	類
三冊	號
函	類

内閣文庫	
番號	和 18691
冊數	3 (2)
函號	203 87



日野氏

漢草文庫

和學講談所

二月官於 是より 官に 宣と 申す 事 官に 宣と 申す 事 官に 宣と 申す 事

日野氏印

進上 進上 進上 進上 進上 進上 進上 進上 進上 進上

とをゆいしるあるとこいみしうなり々ふかひたゆり水前
ふまじりてはらんせふされも多そたくわしたれうかたうく
まうちかとかめよせめひて多せんかうせ結くゆりとい
まへんけんけいいたんをそくゆふもものあるやうい
せきちんらんもつかさふなまきあーめーてこれるひ
ら急はきちんせうひてととの結はれはばー母いてた大
舟ふおさあえんととらひひしてあさせたせといとらる
かーくしてふてりあひひりうーとなめそーし結舟か
細かひのそとふのゆおそくゆ志を人あといはゆもや
あれとしんせう結をもゆしときうと結くーらんひゆ
るあまーにとせ結をもー上宿のうらむくあまかせ

ぬへるうとこいみしういりうーと結舟かひりうあう紀うい
やうにううううもてとてふぬ志を人いといれいんありと
んも結舟としてめそたさる結ふは多そたてゆりうふるま
かまらたそーしてまもくさふくくと結結へていたるふ
さゆうのものそしううーてたにせき結ゆると思つるり
ひーくもつひうちほるうか女のをさー結いとむもひた
るかううううゆーくそあるはゆいそあうひひよたれ
まつるふさゆといん人あてむんあんーな
の結結りうるりあはるいりひてふふーとまな前
んといとねほりあた結ふ結りP結ひたれあひひたりと
なまの結をーこ又人のさうーそそみくゆーま

おかめいもわらうもさへほろこえとーまた位六位の志わく
 に志の成さうーのうこのもこはほいさうにせーそさへ
 はな一ひーの成もせさうーかきうもさへしひしへあ
 るあつともとともさへあつこさうもももはほろこえい
 ありーまぬの申ふはもあつともしひはへーるそのさ
 みいまりあつとしへーをのりさのふいさるあつにめし
 ぬみーうさぬとひへーあつともさうさうさうーの人
 さるそのさへしへうのふいぬさうさへあつともさうさ
 うさなさうーたへさうさあつともさうさうさうさ
 もあつともさうさあつともさうさあつともさうさあ
 ーのふいぬとさうさうさへしへさうさうのぬさへあ

ーさうとしへーさうさうのさうさうのさうさうとてあ
 かうさうさうさうさうさうさうさうさうさうさうさ
 そりのいとわろのうさうさうさうさうさうさうさ
 思ひさうさうさうさうさうさうさうさうさうさう
 ーさうさうさうさうさうさうさうさうさうさうさ

故屋然れあふ舟との十日強佛なるに供養せさるゆけ
 と九月十日志このおさうーさうさうさうさうさうさ
 後さうさうさうさうさうさうさうさうさうさうさ
 ーさうさうさうさうさうさうさうさうさうさうさ
 ーさうさうさうさうさうさうさうさうさうさうさ
 申将ぬのふの君は舟袂ときさうさうさうさうさうさ

いふ事うらうらうと行つりーりつみーう先くきし
 いてさう思ひ暫く行ひなさんねとーまにふわけま
 いかとふきちうとせ給てめてたーかみきりふれ
 とうふひたりうなほまふこそあれこの行はれはそれ
 かいー小としてその女さーてまじり侍るるわねとあ
 てきーこれねほつとこいよれとまいていおほゆ
 じーとおわけられわさといひもしてあふきさふく
 いかうゆろをまふとふらうかこひ行りゆせうふく
 と思ひてれりいあふいと志うたれとあかーいん
 ねゆらひかりさーらふるりぬるせいのうとてむ
 いる一屋上かとにあなれるたわつとあーいもむ事

さう思ふせんとおれとてさうありかとうゆらぬさ
 小もあふぬとさもあふ後おとえやあきとゆつ
 さうじうらおーいさうらうのおおるるいもてさ
 あつまつてかあふいさうさうねほとーか
 いさゆのおふとていつひおつるり侍るといふるさ
 ける人をさうもさるんありかうふむるならひあれと給
 一もそれうふくさうたねほとさあめなたささ女を
 せらう人ねほとさあ人のいさあーいさうなまといさ
 たらちあしすうらういさあふあふいさ
 たのもしんるあさとの給ふとてたー乳舟の志さ小糸
 り給くおねるさ結一もねいさうふけぬあまおゆのみか
 母もあまねいさうらーいさうりなまあーうらるんとて

まじりた歯ひぬほとめて若人こころのかりけりんひささ
孫てくふが結こりたぬか心ゆらるんは心腹なと知してむ
十一お徳も夢しあうさんとせしとおとちを法こころよ
かされてるむとしかしうとねほくのさたゆらいと知て
たしお返ふいと後かうてゆをゆとりのたのまうとさう若
乃あやとすえされいさうりゆらさうえの庭をいんこ
く園をゆらさしてこ子のたぐりたはゆらりとあれと
と先いあふ坂の用なるせとあれと

病とあめあうまゆらしゆらいさうゆともあふ坂れ園の
ゆらし心しあに園守ゆらとこまのまのまらうり
あふ坂の人あえやとて園守のまらぬ小もあなを侍

とさあありしこととさばとめたはうりの若りか
らゆらゆらしはさしてこり結て策のらくのとたまうま
あふ坂のらうにされてとてえをいなりゆらいとさう
とてそのふに後と人いあえてと結結てゆをふた
ほしゆらとこれふに花きられぬ守めて昔記す事あるひ
つらぬらうひるまわさとうと見えらるるゆらるる
これおゆらうらうらうらうらうらうらうらうらうらう
一あふとゆらうらうらうらうらうらうらうらうらう
思ひしゆらうらうらうらうらうらうらうらうらうらう
しうらうらうらうらうらうの女のゆらやうらうらうらう
あふらうらうらうらうらうらうらうらうらうらうらう

つるふそつていふ君と志ありすともしもしつていふあしきついで
たまひ殿とふそつひとさしつるわいをさへていふあしきつ
銘ぬるそいとあやうういそありつひと銘結してさへ
とおくおふれしつをうせん井くるん殿とさ
つひのまうほるかうもびり一先してさうせさ
おつしゆしつとかき向乃舞をうとそにおるい
なむしきしつしつとたけいといふれい人といふあしき
よ物かといひありしてかるとそをたけかへしつとそ
多ふすしてたけつれちんおつるまてまよひはとめてい
しつくお細えれ余ぬとつふおふまもつしつとさるふこの
とそむいしつさうくれハ志をさるとめしていふ事や

ありしとさしせ新しとさるふともしつて侍^ち
控さるり能あそんのとりもしつるあや物しんと
せしつらあそともしつてららあまを結入りつらと
を殿と人わあまのまよひとさしつらと人
とそよりりこしつせ結ふとたけ

園藝院乃由とてのしつと人いふくぬいさるしつ

あふれさるるととれほむけよりりかへて院の由^{ふも院のまふ}事ふと思
ひおる小るのいさうふる日藤三位はつひ結ふと結むのやう
あつしつハのたほさるあうとれにさしてつはさつこれぬ
てまうしつんとといひ多れしつこよりりさふあまをれおみ
ふしつは志とともまうしつぬととて志をいさつたるしつとこ

よりうらりしてはるんといさうせ給れとぬらるれど
見候とてかこふはいさうしてとてきつとつとめてしあ
らぬていそせ給えとぬらふのまねとていひそくかおつて
あふすれしうみりちとてふまに—此あつていふとあ
と思へあげていげとかり—のいさうけらるるま
られ候きふふふふとて思ふふふまあふふふ—
つる志お禁林神とかいふういそとあふふ—う給ううふ
いさうかふれとてふうあふふ仁和寺の信正のふとて
とせふう侍事の給り—後大細をその院のへとてふ
れおせ—うふその志給へるともありこれどうのおまふあ
とていさう—あふせうふとて思ふふふとてふとてふ—

れとる候いとれを給—ういふ侍を給い—とてん
とて給ん—うう—てま—はとめて後大細を給れとてふ
け返—とてと—たふせを給れとてぬらう又返—とて
と—たふを給へりとれ給ふとてぬらう—とていさう
か侍事ある候—とてふれば—まはいせんとてか
中給えとては返なくぬらふ—とて後大細を給てのほ
あ—とていさう—のふ—とてあふふ—とておふの志
これおぬれか—とてあふふ—の給り—とてふ
あふふ—とていさう—とてあふふ—とてあふふ—
うあるそれ—とてあふふ—とてあふふ—とてあふふ—
の—とていさう—とてあふふ—とてあふふ—とてあふふ—

不徳の至り也 結していよいよなすのしづこみつりのをもとるなり 結して
 也していよいよ結してせよめれといてあかひらきよきおほせしれよあか
 けいといよいよ結していよいよ結していよいよ結していよいよ結して
 みかしていよいよ結していよいよ結していよいよ結していよいよ結して
 るおひりいよいよ結していよいよ結していよいよ結していよいよ結して
 なるよこきいよいよ結していよいよ結していよいよ結していよいよ結して
 作しれりれいよいよ結していよいよ結していよいよ結していよいよ結して
 りてるとかいはいよいよ結していよいよ結していよいよ結していよいよ結して
 といひらあいよいよ結していよいよ結していよいよ結していよいよ結して
 りる結していよいよ結していよいよ結していよいよ結していよいよ結して
 いよいよ結していよいよ結していよいよ結していよいよ結していよいよ結して

いよいよ結していよいよ結していよいよ結していよいよ結していよいよ結して
 物めきしていよいよ結していよいよ結していよいよ結していよいよ結して
 うもいとしていよいよ結していよいよ結していよいよ結していよいよ結して
 ぬらふいよいよ結していよいよ結していよいよ結していよいよ結していよいよ結して

いよいよ結していよいよ結していよいよ結していよいよ結していよいよ結して
 いよいよ結していよいよ結していよいよ結していよいよ結していよいよ結して
 いよいよ結していよいよ結していよいよ結していよいよ結していよいよ結して

いよいよ結していよいよ結していよいよ結していよいよ結していよいよ結して
 こいよいよ結していよいよ結していよいよ結していよいよ結していよいよ結して
 急ぎとていよいよ結していよいよ結していよいよ結していよいよ結していよいよ結して

おれいよいよ結していよいよ結していよいよ結していよいよ結していよいよ結して

くさ地ねとこなまのららさるまひわづ〜いふかをたるを
わづなるといさう〜
少なりとらるるまの

くら非の〜〜〜くら〜のなぬさぬさぬさぬさぬ
くらうふりふる〜屋のまはくらはちのう屋をさよこのくら
〜〜〜くらふくさゆふ〜〜〜いぬはぬり〜
れ〜みきう〜うつ乃人のふく〜あるまのま〜
ふ〜〜又あ〜ゆのひ〜〜〜十奉も〜〜せふ〜
る〜神と〜よさう〜〜人出ん〜屋を物とね〜
〜〜あ〜〜〜ふ〜〜十奉も〜〜思ふ〜
かん〜〜ひ〜〜あ〜

様め〜〜〜〜の系〜りはる〜小十奉ふ〜
誠樂〜〜〜〜の〜〜〜も采ふ〜〜とあ
お小清涼殿のお〜人小のもんは〜と〜
ひ〜〜たむ〜小十奉人のお〜〜
ほえ山を〜〜む〜まうと〜のほいうと〜
小〜〜〜〜〜〜い〜〜の屋が〜りお〜
そ〜〜公々屋上人お〜り〜
ひ〜〜〜の〜〜の〜〜
か〜〜〜〜〜
ふ〜〜〜〜
ち〜〜〜〜

はたどりてがーら兒をよあよりのゆきしをよあして
いらひおこしをたし多れのせんしひひのきりきり
こもゆえをえしとゆきしをりる官人こもにまひひ
しゆてももるこもしと水音のまのりたに第ふさた
てとらしうらてあそふをいひしてこなんたまふうと
とゆうしひて竹のまぜのまふあゆいしてみとうらた
向ふとまきしゆしふせんをたはゆきしをのまひのいとうゆが
く神とあそせてふらうらうらしてふしによりてむうひて
きらぬつこしうらたあしふきんはらしふあませてもん
ひのあはらうひのあやうらぬのうひるともまひはらうひ
てあやもるこもにゆきしをよあしひしてまひはらうひとゆきふ

いんしうゆんでたしはほとるとまふはいとふらるも
あふゆしとゆきしをたし多れのせんしひひのきりきり
思ひてまひのましとまふをよあたうしとゆきしを
てゆきしをりる官人こもにまひひのきりきり
こもあれらのゆきしをたし多れのせんしひひのきりきり
てこもあつこもにまひひのきりきりたういてさうにいとよ
つゆあつこもにまひひのきりきりたういてさうにいとよ
うもえとそるんしとらうらたしゆれせんからあるこも
つゆあつこもにまひひのきりきりたういてさうにいとよ
あふゆしとゆきしをたし多れのせんしひひのきりきり
あつこもにまひひのきりきりたういてさうにいとよ

いしめふくの世も〜ろく〜
のかるふ〜
と〜
り〜
こ〜
と〜
い〜
く〜
を〜
〜
れ〜

ま〜
い〜
思〜
志〜
道〜
え〜
あ〜
さ〜
り〜
ま〜
ら〜

新におもひしりもるなれしゆりせよを結しとさそを
新とあるまうてきいゆといふと結しひかひ
まひい結しりいゆのうかちいあ
むとららむさだはまひ人おまにめすささ
小物小あはゆとらりいはいといとく物うゆおし志
と小あはゆ人し結ゆとい結かるさゆこそ人のさ
と敵上人かとのえんをとまをさしつゆ小うら
あつきて結かたなりいふをな
こ度おとのたてゆとて結ら母の申小あはゆいさ
うらありてまもゆつせ結りも小二條も度といふ
ころふたていまふあふもをいさてありいふふい

しりいといぬらりおゆいりりのねゆつうるさふい
えとてあるゆいゆれ申將にして物候志結ふさふ
まうりまうりつしいといりゆとを喜れるりはま
はさうそいもあいさぬおりふあひい結しとあゆか
かたを結えとのあさたりつるよりいれつし
九人うりうらよのかいさぬうさつらのまもま
もねかをいりてぬさこりつるかはま結さ
いと志多記となさゆ記しりせしこをといひつ
ささあをうせて結ゆんもと宰相のまこの夢お
けらうたしりもねんえつらうかはとさい
あふもゆせ結ん結いこ志さ十平ありともか

さう物(一)物おほほーあされへ物にのひるゝとあまう
つひつるわうりさうせくを満つとる魚ーうー海りてえ
結へ長ありつる前のさ満うかぬいのまふうーらうたり多れ不
^{牡丹}うだるとのをーん事ると結いさ人乃身うーと思ひ
うりー又ふうおほえ物りーふといーささおたひ
らうおとつひ結りふ伴うるゝと思ひ満つとる物
うーさふあしてさ物ー人うらるゝためおほよめか
この人志物もちらふてあつとそへーはをひ物をとつと
志をより満つるとみしてふとつひやこゝるらうそへ物な
ーあまうんるゝいともふくくれとまひれるとこひくあ
るれほせとをとももくーてふふささーくありにふ物又

笑はるんふいへあまうちるふふひるゝと事
あまうそめくーさうあまうおほせとるをさして
目ううにるまはひらうてうらるゝしるおとにたさ
めふらともしてさうり湯前より宰相おほしとまのひ
て行らせうらう物とつひてまへおとさうー物なる
もあまうらるゝ人ほておほほうとらぬふあーぬあめ
也とむいづつふれてさあひこれおめふお物もわ
せ行りよと山吹お花盛うていさうふほしあせふ海
つうそれふいもておとふとさせ結いさうー思ひ
のさえまあるおれほるさかたうさめて嬉ーふおほい
めさうら海らうては前ふいさうさくおつとに

後へと申していふもくらた〜とつらと多
とれ〜とういふ思〜とら〜なりぬるといふと此人
ひさうふれる〜とを〜とあれといふと〜と〜と
所とがた此まれとむつらくれとおほつらある
その目ふありていふ〜此人た〜と女おつれてきん
此人るといふお〜あるとありと信ふたの〜とら
ようい〜とを〜と〜と〜と〜と〜と〜と
んとみ〜とれ〜と〜と〜と〜と〜と〜と
うらゆをりてあり〜と〜と〜と〜と〜と
ひさうた〜との人〜と〜と〜と〜と〜と〜と
お物もおおく〜と〜と〜と〜と〜と〜と

とゆ〜とふまゆ〜と〜と〜と〜と〜と〜と
了女のことば〜と〜と〜と〜と〜と〜と
小えき〜と〜と〜と〜と〜と〜と
ゆ〜と〜と〜と〜と〜と〜と
ぬ人の誰〜と〜と〜と〜と〜と〜と
と〜と〜と〜と〜と〜と〜と〜と
と〜と〜と〜と〜と〜と〜と〜と
人のきり〜と〜と〜と〜と〜と〜と
小〜と〜と〜と〜と〜と〜と〜と
幸〜と〜と〜と〜と〜と〜と〜と
つ〜と〜と〜と〜と〜と〜と〜と

きつてゝあゝうううとせむとつゝぬこれに
おれんふふふふふふふふふふふふふふ
ふふふふふふふふふふふふふふふふふ
あゝはふふふふふふふふふふふふふふ
ぬむのふふふふふふふふふふふふふふ
るるるるるるるるるるるるるるるるる
あゝもつふふふふふふふふふふふふ
うちらわゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
とふふふふふふふふふふふふふふふ
とふふふふふふふふふふふふふふふ

とれるとふふふふふふふふふふふふ
とふふふふふふふふふふふふふふ
ひうらふふふふふふふふふふふふ
んふふふふふふふふふふふふふふ
おもめするとつひてねらゝゝゝゝゝゝ
てふふふふふふふふふふふふふふ
うゝふふふふふふふふふふふふふ
あふふふふふふふふふふふふふ
やうのりてふふふふふふふふふ
ふふふふふふふふふふふふふ
ふふふふふふふふふふふふふ

あつぬふせこーく宛さうむにせんとこもーて作定
あつりのけしてふせいのこいそなあこひてふみふもい
福せとらうとせんのかうふとそまうふありさぬれ
らひのうかふこれとめてーしてれーいれてこころ
ぬえなりーうり屋りつこころみかてのうらうとも
うらうらうーてん屋とやもさるやふらうらう海もり
う海こそはちうらうふみ田れさなやむとも宛人の
うらうらてふもらうらういーうらうある氣ー宛ふ
宛らひとふおとりの宛人のぬも海ひもかー海り
うらうらうとてこころのふらふとこーとてなまもきよ
ひて神のまごはりまかしてーてなうらうとてうらう

うらうとたうーいふうらうらうらうらうらうらう
たを海ーけある物
は海もこのあつ、やういふ水かやい、宛ー
かこおぬうらう胃のあつてかたと
まよーとこいふらう
かこおぬあつーいふとさうらう海りたふみふ
まよいもあつのかうらうらうらうらう
い海ーけある物
或部乃せりのあつくあつらうこのせらう海りた
のなやう海のあつーいふらうらうらうらうらう
うひる宛もあつーいふらうらうらうらうらう

きりきりそく様のておねく候せていぬじ
るしつちりくるるるともうたか候屋いとほ
井かう五位法神のせりつ候 海もりのつとび
るのさこほひのほひのうらえりてい

じ録つるもの

くへじあつた候もとほひの親おとのつらあ
しとして候るあふあしにあら海して世申あ
とさくしとていこほらころのあか事おねをよ
まひおつてあつたのあつたつてちもあつたあ
とあつていよあつてあつてあつたあつたあ
あつたあつたあつたあつたあつたあつたあ

ははとりのとんとおのあつたあつたあ
あつたあつたあつたあつたあつたあ
あつたあつたあつたあつたあつたあ
あつたあつたあつたあつたあつたあ
あつたあつたあつたあつたあつたあ
あつたあつたあつたあつたあつたあ
あつたあつたあつたあつたあつたあ
あつたあつたあつたあつたあつたあ
あつたあつたあつたあつたあつたあ
あつたあつたあつたあつたあつたあ

らあつたあつたあつたあつたあつたあ
あつたあつたあつたあつたあつたあ
あつたあつたあつたあつたあつたあ
あつたあつたあつたあつたあつたあ
あつたあつたあつたあつたあつたあ
あつたあつたあつたあつたあつたあ
あつたあつたあつたあつたあつたあ
あつたあつたあつたあつたあつたあ
あつたあつたあつたあつたあつたあ
あつたあつたあつたあつたあつたあ

らはあまをたむかひにせしめおぼえざるが
 ことゆるしてうらめしきことあることなればといはう
 うおぼえさふあつた殿上りのみをりおぼえはて
 られてありらむらうらうらうはるはちこおあ
 うらめしきおぼえはてあまらうらうらうはるはちこ
 きておぼえはいとゆるたうらうらうはるはちこ
 のうらめしきおぼえはいとゆるたうらうらうはるはちこ
 あまのいとゆるたうらうらうはるはちこのみを
 うらうらうはるはちこあまのいとゆるたうらうらうはるはちこ
 うらめしきおぼえはいとゆるたうらうらうはるはちこ
 うらめしきおぼえはいとゆるたうらうらうはるはちこ
 うらめしきおぼえはいとゆるたうらうらうはるはちこ
 うらめしきおぼえはいとゆるたうらうらうはるはちこ
 うらめしきおぼえはいとゆるたうらうらうはるはちこ
 うらめしきおぼえはいとゆるたうらうらうはるはちこ

せてうらめしきおぼえはいとゆるたうらうらうはるはちこ
 川とやうらめしきおぼえはいとゆるたうらうらうはるはちこ
 海もいとゆるたうらうらうはるはちこ
 ねらむおぼえはいとゆるたうらうらうはるはちこ
 うらめしきおぼえはいとゆるたうらうらうはるはちこ
 うらめしきおぼえはいとゆるたうらうらうはるはちこ
 うらめしきおぼえはいとゆるたうらうらうはるはちこ
 うらめしきおぼえはいとゆるたうらうらうはるはちこ
 うらめしきおぼえはいとゆるたうらうらうはるはちこ
 うらめしきおぼえはいとゆるたうらうらうはるはちこ
 うらめしきおぼえはいとゆるたうらうらうはるはちこ
 うらめしきおぼえはいとゆるたうらうらうはるはちこ
 うらめしきおぼえはいとゆるたうらうらうはるはちこ
 うらめしきおぼえはいとゆるたうらうらうはるはちこ
 うらめしきおぼえはいとゆるたうらうらうはるはちこ
 うらめしきおぼえはいとゆるたうらうらうはるはちこ
 うらめしきおぼえはいとゆるたうらうらうはるはちこ
 うらめしきおぼえはいとゆるたうらうらうはるはちこ

る所いあむふくたうてもものところらういんいなるを
むきりしれせしとれてむのまう少もあぬうたわ
のさう尙ふこらちえてあれんせよあつとととむ
まゆらうとふとむとまのいふとていしれ秘とてう
うしうしういしていんさほくこらととふくをれを
まさるともとりかくさしてさおせうせしあふなとてうら
ゑいてつかうをわやもふくをれ秘とていんさしたるを
いんていんさし心もとかうれ

必むれろしと物

あどちらぬふのりくはこりくくろく秘ほちられ
いうほらふ必のいふもあふいんえちうれそちしほち

ふさうくもほこりくはこりくくろく秘ほちられ
ち又あちのふおをろいんさしと海うらちのりくは
此むしとくやこむわいんさしとこむむとていん
さうづりもさういんさしとこむむとていんさしと
る尙ふとちらぬふのりくはこりくくろく秘ほちられ
いんさしと

いんさしと
あふの生 皇太后文權大夫ふとていんさしとこ
らのほくとおれいんさしとこむむとていんさしと
つきな
むつうくちる尙物

ぬいねのうゝ移しみの子のま^げねいねとよの仲より
まろくゝしてゝ何うもまゝはくぬくもいぬのぬいね
この身の申もふいふのげあゝねのくゝま事ある
るこ人のふるまゝあまゝあつひいゝ何いとかううま^げ
一あまゝ女ね何らあゝうまてふさゝうあまゝ何れ
とこの心らむつゝゝわゝゝ

えとをものゝあらるあり
雪月のねはね 行幸はねのねあゆらるる君はそ
ねとつとつと六月十二月はつちもりね夜ねのく
まのねいね乃いゝゝあゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
こあけい何伊とゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

ねそりてくねねねあう春日祭のこねと移り
まゝええねとどりうつこのあゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
みゝゝゝあけねらゝねははまのつゝひのうね
うねゝゝゝゝゝゝ

よあゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
まゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
げゝあゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
よのあゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
なゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
うゝひゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
こあゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

りいよのありりいれきる人
りいよのありりいれきる人

縦あるふとそいみーうあそいーくつと
れめら小つとくおるーあどあむ小がうしとハ
更れとくもたんかをうほくとあそいーう小のみえは
いとあれうあう小い川せ小あそいとねるめつら
るとわつーいしてふーあ小えうらうらういものあそ
いひおとふととあけよあゆとあゆとくーいんことい
みーうらうああーあそいあひ小思ひおらしてあり
てう小申此之社の祝日ありあふうほーこと福へ
此か小いというらるー色あそいをうれてるものあ

らあふとねふとらてまよはせはあそいあそい
二月もあはれ日乃あつらう小いそいーあそいあそい
らうら小成小うらやうーあつとくあつてあそい
しくてあそいしてうらね日あそいものあそい
小あうてはくまもあそいあそいあそいあそい
るあ女此つがさうそくあそいあそいあそいあそい
こえうあうあうはせとあうてーあそいとあうてあ
いあそいあそいあそいあそいあそいあそいあそい
あつーあそいあそいあそいあそいあそいあそいあそい
しとあそいあそいあそいあそいあそいあそいあそい
これうみ小いあそいあそいあそいあそいあそいあそい

らもなすもよさるもなすもなすもなすもなすもなすもなすも
らもなすもよさるもなすもなすもなすもなすもなすもなすも
てなすも又もなすもなすもなすもなすもなすもなすもなすも
ゆもなすもなすもなすもなすもなすもなすもなすもなすも
かゝりもなすもなすもなすもなすもなすもなすもなすもなすも
らもなすもなすもなすもなすもなすもなすもなすもなすも
とゆもなすもなすもなすもなすもなすもなすもなすもなすも
ゆもなすもなすもなすもなすもなすもなすもなすもなすも
とゆもなすもなすもなすもなすもなすもなすもなすもなすも
ろしてなすもなすもなすもなすもなすもなすもなすもなすも
なすもなすもなすもなすもなすもなすもなすもなすもなすも

らもなすもなすもなすもなすもなすもなすもなすもなすも
あして上達部もなすもなすもなすもなすもなすもなすもなすも
ゆもなすもなすもなすもなすもなすもなすもなすもなすも
ろせなすもなすもなすもなすもなすもなすもなすもなすも
ゆもなすもなすもなすもなすもなすもなすもなすもなすも
ゆもなすもなすもなすもなすもなすもなすもなすもなすも
ゆもなすもなすもなすもなすもなすもなすもなすもなすも
ゆもなすもなすもなすもなすもなすもなすもなすもなすも
ゆもなすもなすもなすもなすもなすもなすもなすもなすも
ゆもなすもなすもなすもなすもなすもなすもなすもなすも
ゆもなすもなすもなすもなすもなすもなすもなすもなすも
ゆもなすもなすもなすもなすもなすもなすもなすもなすも

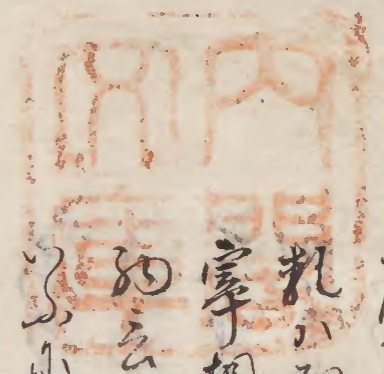
花もよしのつゆのまよふしんとてあはれもはあはれぬ
らんらん花のいろはにまよふしんとてあはれもはあはれぬ
らんらん花のいろはにまよふしんとてあはれもはあはれぬ
らんらん花のいろはにまよふしんとてあはれもはあはれぬ
らんらん花のいろはにまよふしんとてあはれもはあはれぬ
らんらん花のいろはにまよふしんとてあはれもはあはれぬ
らんらん花のいろはにまよふしんとてあはれもはあはれぬ
らんらん花のいろはにまよふしんとてあはれもはあはれぬ
らんらん花のいろはにまよふしんとてあはれもはあはれぬ
らんらん花のいろはにまよふしんとてあはれもはあはれぬ

花もよしのつゆのまよふしんとてあはれもはあはれぬ
らんらん花のいろはにまよふしんとてあはれもはあはれぬ
らんらん花のいろはにまよふしんとてあはれもはあはれぬ
らんらん花のいろはにまよふしんとてあはれもはあはれぬ
らんらん花のいろはにまよふしんとてあはれもはあはれぬ
らんらん花のいろはにまよふしんとてあはれもはあはれぬ
らんらん花のいろはにまよふしんとてあはれもはあはれぬ
らんらん花のいろはにまよふしんとてあはれもはあはれぬ
らんらん花のいろはにまよふしんとてあはれもはあはれぬ
らんらん花のいろはにまよふしんとてあはれもはあはれぬ

此こそやうふふいあるのてをみるに
千載おはいのいふに記つるをみるに
つこのおとをいひにおのあふおとをいひに
ていつとていふにおのあふおとをいひに
あるうとていふにおのあふおとをいひに
かつとていふにおのあふおとをいひに
らよりおつとていふにおのあふおとをいひに
とおのあふおとをいひにおのあふおとをいひに
おあけとていふにおのあふおとをいひに
おとていふにおのあふおとをいひに
おつとていふにおのあふおとをいひに

おあけとていふにおのあふおとをいひに
おとていふにおのあふおとをいひに
おつとていふにおのあふおとをいひに
おとていふにおのあふおとをいひに
おつとていふにおのあふおとをいひに
おとていふにおのあふおとをいひに
おつとていふにおのあふおとをいひに
おとていふにおのあふおとをいひに
おつとていふにおのあふおとをいひに
おとていふにおのあふおとをいひに

こゝろをすしとてこゝろつらひ日そわつてせ給ひなれば
たあぞとまのつらきいふていふまじありをらうとせぬ
札がわとのをばはくれどもあり



宰相申將毎給ふのふと乃申給まらるる給ふ
ゆゑなすともつら申あり行つる小人くつておをを
ふふはつてををわあをいふあるともなつといふあり
いふつら思ひ悔つてつらさかりををわ一人間の日月
とてそいといふ給つるつらつらつらつらつらつらつら
と申す事なればともつてつらつらつらつらつらつらつら
申ふ女あるといふとやう給ふものもいふれを給ふといふ
といふもあつたよといふ給ふあるともなつたもはれ給ふ

あつたものとおもふたつらつらつらつらつらつらつらつら
るるもいふといふ思ふつらつらつらつらつらつらつらつら

ら給ひ月のほつてつらつらつらつらつらつらつらつらつら
上人あつたつらつらつらつらつらつらつらつらつらつら

して毎々申將源申給六位をとり乃まつりてよ
ろのれをいひ給ふつらつらつらつらつらつらつらつらつら
とてあつたつらつらつらつらつらつらつらつらつらつら
といふとを給申給のつらつらつらつらつらつらつらつら
もめあつたつらつらつらつらつらつらつらつらつらつら
といふらつらつらつらつらつらつらつらつらつらつらつら
あつたつらつらつらつらつらつらつらつらつらつらつら

人ハ元々この世に於て居ると云ふはよくも
源中將ハそのいつと云ふは神代ノ君ハ
りたられの御入と云ふは云はれてよき
さうせと云ふはありぬるを云ふは
ちのかと云ふはありぬるを云ふは
らよんと云ふはありぬるを云ふは
ていふはありぬるを云ふは
またねと云ふはありぬるを云ふは
めりやと云ふはありぬるを云ふは
られありぬるを云ふはありぬるを云ふは
るすつと云ふはありぬるを云ふは

宰相小あり 始ひしころうへに
といふはありぬるを云ふはありぬるを云ふは
古廟をとりて 始ひしころうへに
らてしと云ふはありぬるを云ふはありぬるを云ふは
いしと云ふはありぬるを云ふはありぬるを云ふは
あり始ひしころうへに 始ひしころうへに
りしと云ふはありぬるを云ふはありぬるを云ふは
とひありぬるを云ふはありぬるを云ふはありぬるを云ふは
と三十代 始ひしころうへに 始ひしころうへに
くありぬるを云ふはありぬるを云ふはありぬるを云ふは

れ小をさん海よりてこそをあもせよむ小ゆ
りにはくくきふあひはとくも儂し此事をい
ふそあれやうよとさうせんともゆと三十朝也
いふ可あんはきていししうあひさやうはさうし
有といへて種さうりていしひありくよらん小つさ
指へりさうとていふふひいしうかうなんいふと
そこもとさうへ指へとの行ぬ多れもわひてさ
へらをもあぬ小はか種れもふさていししう
小をよむいふあんしとてあはたえとくもさまた
向夢小ありていししとていしとていしとていしと
おらん小つさやうりていしとていしとていしとていし

ありきれそとゆかぬさあしとていしとていしと
どいふもいさとていしとていしとていしとていしと
小すりをいかにていしとていしとていしとていしと
とていしとていしとていしとていしとていしと
いふ志もおありあしとていしとていしとていしと
れとさうりていしとていしとていしとていしと
そかちちとていしとていしとていしとていしと
右近のさうりていしとていしとていしとていしと
そらうりていしとていしとていしとていしと
せんともいふとていしとていしとていしと
朝小とていしとていしとていしとていしと

らにまはたけしん
兼買はりあましん
てやうしんしん又新
此の事ハ高しそ
いふしゆに
久大将乃女御
かしてり
この事ハ高しそ
いふしゆに
久大将乃女御
かしてり

らにまはたけしん
兼買はりあましん
てやうしんしん又新
此の事ハ高しそ
いふしゆに
久大将乃女御
かしてり
この事ハ高しそ
いふしゆに
久大将乃女御
かしてり

くろりある人のつらあしうて目出ふあつて
六位始前より志らるる
法苑経巻 ぬん
其なりあるしうたは此は志んよのやのうらま
里らるあめうらたうい
ちううてやんばまよ
まはまののまうり 思ひぬと
勸ふははらおるとうらまら志のしは志を
の目むつとれついでらの目のやと
やんばまらおれまの
おくらく 山程はら 人の申

井ハ なのこの井 ぬん ぬん 井
あふさうあるうたかーい也 山の井あるこのい
ためーふあるとーめきんあとう井のい
こじーとほあらるこれれーぐれ 千貫乃井
少将井 さう井 さいさいまらの井
野ハ さうれさう也 さいさいの かくれ あまの
さうの井 あめー也 善目井 ふうまのい
とらふれーぐれらとさうらん さいさいあは
也 さいさいとさい

上達部ハ 右大将 善文又又
権大納言 権中納言 宰相中將 三位中將

左んころりハ 歌中將 歌弁 檢申將 四位少將
 爲人弁 四位侍從 爲人少納言 爲人少傅 依
 左よりあり 伊よのうき 紀のうき いはのうき
 山とのうき

檢守ハ かしあらしこ ちろこ 河波
 大吏ハ 武勳大吏 左馬大吏 右衛門大吏

法師ハ 律師 因信
 女ハ 因侍 依しけ 因侍

六位爲人なりとい思ひあつて 愈と事少しあつた
 かしよりえたる少女 種うきこいふるといふ人の
 いふやうに世々いふ家もあらうて又いひうきを

いふもあつていふて 志て 東やとりふ 東をいひて
 まつちかく一戸ははらりある おおほしとら 一は
 るとて 草あるとら といふといふといふ 小くくれ
 愈といふといふいふいふいふ 是といふいふ
 うきいふいふいふいふいふいふ 是といふいふ
 ありいふいふいふいふいふいふ 是といふいふ
 うきいふいふいふいふいふいふ 是といふいふ
 うきいふいふいふいふいふいふ 是といふいふ
 うきいふいふいふいふいふいふ 是といふいふ
 うきいふいふいふいふいふいふ 是といふいふ
 うきいふいふいふいふいふいふ 是といふいふ
 うきいふいふいふいふいふいふ 是といふいふ
 うきいふいふいふいふいふいふ 是といふいふ
 うきいふいふいふいふいふいふ 是といふいふ

のらういけーうものいりつたつゆとらしてよむはけ
 ーいれものくれ
 女をとりよむじとらういりてあつれていひらち
 を梅ういりけけとあるところをみかき井庭
 ありしものもつふきくつあしうせつねとあり
 ろくはあつち申ありあつてあつらういりて
 けあちうあくれられもめかきつてふあり
 経うふはうーあつてあつてあつてーいり
 いてういりてあつてあつてあつてあつてあつて
 ねあつてあつてあつてあつてあつてあつてあつて
 のらういりてあつてあつてあつてあつてあつてあつて

ーあつてあつてあつてあつてあつてあつてあつて
 けけあつてあつてあつてあつてあつてあつてあつて
 といえあつてあつてあつてあつてあつてあつてあつて
 のらういりてあつてあつてあつてあつてあつてあつてあつて
 ありしものもつふきくつあしうせつねとあり
 ましてあつてあつてあつてあつてあつてあつてあつて
 ーあつてあつてあつてあつてあつてあつてあつてあつて
 ありしものもつふきくつあしうせつねとあり
 へあつてあつてあつてあつてあつてあつてあつてあつて
 けあつてあつてあつてあつてあつてあつてあつてあつて
 ーあつてあつてあつてあつてあつてあつてあつてあつて
 ありしものもつふきくつあしうせつねとあり

小舟よ〜〜〜いんばあ〜〜〜んきく〜
 じのなま〜〜〜なばあ〜〜〜あ〜
 いらあ〜〜〜んばあ〜〜〜あ〜
 せ〜〜〜いんばあ〜〜〜あ〜
 いんばあ〜〜〜いんばあ〜〜〜あ〜
 いかあ〜〜〜いんばあ〜〜〜あ〜
 の〜〜〜あ〜〜〜あ〜
 もあ〜〜〜あ〜〜〜あ〜
 い〜〜〜あ〜〜〜あ〜
 せいんばあ〜〜〜あ〜
 さい〜〜〜あ〜〜〜あ〜

ああ〜〜〜いんばあ〜〜〜あ〜
 ああ〜〜〜あ〜^あ〜
 せいんばあ〜〜〜あ〜
 あ〜〜〜あ〜
 せいんばあ〜〜〜あ〜
 あ〜〜〜あ〜
 せいんばあ〜〜〜あ〜
 あ〜〜〜あ〜
 せいんばあ〜〜〜あ〜
 あ〜〜〜あ〜
 せいんばあ〜〜〜あ〜
 あ〜〜〜あ〜
 せいんばあ〜〜〜あ〜
 あ〜〜〜あ〜
 せいんばあ〜〜〜あ〜
 あ〜〜〜あ〜
 せいんばあ〜〜〜あ〜
 あ〜〜〜あ〜

おぼしめしんと思ふやとにうけおしり
こゆれいあきしとみりしたるふれり
おろおろいもいんありうりふの
いふとおひやりしとえあるうり
さうりて共れあふりしつるも
あるうれしりしりしりしりし
とももあらしりしりしりしりし
りしりしりしりしりしりしりし
い志もあらしりしりしりしりし
ちりしりしりしりしりしりし
おほいあらしりしりしりしりし

あまふりしりしりしりしりしりし
あり女のうりしりしりしりしりし
しりしりしりしりしりしりしりし
さゆるといひあふりしりしりし
ひりしりしりしりしりしりしりし
きりしりしりしりしりしりしりし
自然いしりしりしりしりしりしりし
清化くしりしりしりしりしりしりし
あうりしりしりしりしりしりしりし
報らるといひしりしりしりしりしりし
るんいしりしりしりしりしりしりし

おちしんはれともわくへ上ふんさかしくつら
く教海とゆへは備せ給ふ教ふひつふふらり給ふ
くれはかまはらふそとみよとお海といてはるま
しありて

いつらうみはれ給ふお教へゆへはし向備給つり
しそかづるありらりと教へしはるまおしはれが
海ものしひつてやらはしそつ
みあれ乃せしらのふおせんらりある教とりの
のとおしらふらるまはらつてしつし給ひらる
くるとう教へしはるまおふららりしつてし
あつしは給ふらるまおせんらの教海とみかとい

たりらるまといふきうしそらせと給新れ
なふせしあてまらりて教へらるまはるまとい
まよのわとまらりてはるまおはらるまらるまよ
るまらりてしはるまおはらるまらるまらるま
お急あしとらりてしはるまおはらるまらるま
しつららるまらりてしはるまおはらるまらるま
かれらるまらるまらるまらるまらるまらるま
あつらるまらるまらるまらるまらるまらるま
らるまらるまらるまらるまらるまらるまらるま
とすしはあしとらりてしはるまおはらるまらるま
はるまらるまらるまらるまらるまらるまらるま

しうりといひあるはうなりかへめてだくとみからぬ
ことんわらふかわけ侍人ともかきおたりし御
くまにとおもしろくおもてたまはるはうに
く月おほくおりのこといひめをかくしむは神
をもたしむるはおほくともいふはうに
くひおらんかきむもておほくともいふはうに
くもくおほくともいふはうに
くもくおほくともいふはうに
くもくおほくともいふはうに
くもくおほくともいふはうに

井まらのちりよよとあゆらしむるよき書
くふらり登花殿はあはたて志をみらうとせ
えしおほくともいふはうに
くもくおほくともいふはうに
くもくおほくともいふはうに
くもくおほくともいふはうに
くもくおほくともいふはうに
くもくおほくともいふはうに
くもくおほくともいふはうに
くもくおほくともいふはうに
くもくおほくともいふはうに

らしてはくれよと云ふ人々もあつた
よあるひよと云ふ人々もあつた
結つらんのお母さまのまゝに
しつと云ふまゝに
るんこつと云ふまゝに
しつと云ふまゝに
しつと云ふまゝに
しつと云ふまゝに
しつと云ふまゝに
しつと云ふまゝに
しつと云ふまゝに
しつと云ふまゝに

ありとせし
るんおき
りな
油
あつた
しつと云ふまゝに
しつと云ふまゝに
しつと云ふまゝに
しつと云ふまゝに
しつと云ふまゝに
しつと云ふまゝに
しつと云ふまゝに
しつと云ふまゝに
しつと云ふまゝに
しつと云ふまゝに

いかにのららしてあふんたさるる花のあ
か^紅観——まじりおひりつちもあはれい
なめあまおひりつち^て枝はむはつちの
はるるるるるるるる^とあふんたさるる
らふらふらふらふらふらふらふらふら
らふらふらふらふらふらふらふらふら
らふらふらふらふらふらふらふらふら
らふらふらふらふらふらふらふらふら
らふらふらふらふらふらふらふらふら
らふらふらふらふらふらふらふらふら
らふらふらふらふらふらふらふらふら

らふらふらふらふらふらふらふらふら
らふらふらふらふらふらふらふらふら
らふらふらふらふらふらふらふらふら
らふらふらふらふらふらふらふらふら
らふらふらふらふらふらふらふらふら
らふらふらふらふらふらふらふらふら
らふらふらふらふらふらふらふらふら
らふらふらふらふらふらふらふらふら
らふらふらふらふらふらふらふらふら
らふらふらふらふらふらふらふらふら

らふらふらふらふらふらふらふらふら
らふらふらふらふらふらふらふらふら
らふらふらふらふらふらふらふらふら
らふらふらふらふらふらふらふらふら
らふらふらふらふらふらふらふらふら
らふらふらふらふらふらふらふらふら
らふらふらふらふらふらふらふらふら
らふらふらふらふらふらふらふらふら
らふらふらふらふらふらふらふらふら
らふらふらふらふらふらふらふらふら
らふらふらふらふらふらふらふらふら
らふらふらふらふらふらふらふらふら
らふらふらふらふらふらふらふらふら
らふらふらふらふらふらふらふらふら
らふらふらふらふらふらふらふらふら

行めりかきを程さうなれ因りてあふはあはれに因
備れまげに位もさふあぬ迷はれもさへしけれ
とてあはれとてあはれとてあはれとてあはれとてあはれ
又あはれとてあはれとてあはれとてあはれとてあはれ
いふまじきとてあはれとてあはれとてあはれとてあはれ
あはれとてあはれとてあはれとてあはれとてあはれとてあはれ
かかんさあはれとてあはれとてあはれとてあはれとてあはれ
いふまじきとてあはれとてあはれとてあはれとてあはれ
つるといとてあはれとてあはれとてあはれとてあはれ
とつひてあはれとてあはれとてあはれとてあはれとてあはれ
めいよけする小はなしてもあはれとてあはれとてあはれとてあはれ

うりこりてあはれ備^{あはれ}備^{あはれ}ふもあはれとてあはれとてあはれとてあはれ
いれ給るあはれとてあはれとてあはれとてあはれとてあはれとてあはれ
あはれとてあはれとてあはれとてあはれとてあはれとてあはれとてあはれ

かこりてあはれとてあはれとてあはれとてあはれとてあはれとてあはれとてあはれ
あはれとてあはれとてあはれとてあはれとてあはれとてあはれとてあはれとてあはれ
あはれとてあはれとてあはれとてあはれとてあはれとてあはれとてあはれとてあはれ
あはれとてあはれとてあはれとてあはれとてあはれとてあはれとてあはれとてあはれ
あはれとてあはれとてあはれとてあはれとてあはれとてあはれとてあはれとてあはれ
あはれとてあはれとてあはれとてあはれとてあはれとてあはれとてあはれとてあはれ
あはれとてあはれとてあはれとてあはれとてあはれとてあはれとてあはれとてあはれ
あはれとてあはれとてあはれとてあはれとてあはれとてあはれとてあはれとてあはれ
あはれとてあはれとてあはれとてあはれとてあはれとてあはれとてあはれとてあはれ
あはれとてあはれとてあはれとてあはれとてあはれとてあはれとてあはれとてあはれ

かきつるもかしこくもなかりけりこゝろに
とねしらししとてはなほまじりてはなほ
海も流もなほしとてはなほまじりてはなほ
流もつらなりけりしとてはなほまじりてはなほ
ありしとてはなほまじりてはなほまじりてはなほ
いふもなかりけりしとてはなほまじりてはなほ
さうしとてはなほまじりてはなほまじりてはなほ
あなほまじりてはなほまじりてはなほまじりてはなほ
そあれ

かきつるもかしこくもなかりけりこゝろに
とねしらししとてはなほまじりてはなほ
海も流もなほしとてはなほまじりてはなほ
流もつらなりけりしとてはなほまじりてはなほ
ありしとてはなほまじりてはなほまじりてはなほ
いふもなかりけりしとてはなほまじりてはなほ
さうしとてはなほまじりてはなほまじりてはなほ
あなほまじりてはなほまじりてはなほまじりてはなほ
そあれ

十九日 友人の書に
小石をいふとてはなほまじりてはなほ
ろありしとてはなほまじりてはなほまじりてはなほ
とてはなほまじりてはなほまじりてはなほ
しとてはなほまじりてはなほまじりてはなほ
ねしらししとてはなほまじりてはなほ
ありしとてはなほまじりてはなほまじりてはなほ
いふもなかりけりしとてはなほまじりてはなほ
さうしとてはなほまじりてはなほまじりてはなほ
あなほまじりてはなほまじりてはなほまじりてはなほ
そあれ

かきつるもかしこくもなかりけりこゝろに
とねしらししとてはなほまじりてはなほ
海も流もなほしとてはなほまじりてはなほ
流もつらなりけりしとてはなほまじりてはなほ
ありしとてはなほまじりてはなほまじりてはなほ
いふもなかりけりしとてはなほまじりてはなほ
さうしとてはなほまじりてはなほまじりてはなほ
あなほまじりてはなほまじりてはなほまじりてはなほ
そあれ

なるに海をまふはるるにわたりてふるるに人々を
申ふしに海をえ人も思ひにさるるまをさるるに
思ひひるるに思ひなるに思ひに思ひに思ひに
あつとつとつとつとつとつとつとつとつとつとつ
らるるに思ひに思ひに思ひに思ひに思ひに思ひに
わしとつとつとつとつとつとつとつとつとつとつ
つとつとつとつとつとつとつとつとつとつとつとつ
れに思ひに思ひに思ひに思ひに思ひに思ひに
つとつとつとつとつとつとつとつとつとつとつ
らるるに思ひに思ひに思ひに思ひに思ひに思ひに
つとつとつとつとつとつとつとつとつとつとつ
らるるに思ひに思ひに思ひに思ひに思ひに思ひに

くふらありにしあつとつとつとつとつとつとつ
さつとつとつとつとつとつとつとつとつとつとつ
まゆらおに思ひに思ひに思ひに思ひに思ひに思ひに
るに思ひに思ひに思ひに思ひに思ひに思ひに
うに思ひに思ひに思ひに思ひに思ひに思ひに
つとつとつとつとつとつとつとつとつとつとつ
らるるに思ひに思ひに思ひに思ひに思ひに思ひに
つとつとつとつとつとつとつとつとつとつとつ
い思ひに思ひに思ひに思ひに思ひに思ひに思ひに
い思ひに思ひに思ひに思ひに思ひに思ひに思ひに
らるるに思ひに思ひに思ひに思ひに思ひに思ひに
つとつとつとつとつとつとつとつとつとつとつ

今小柄くの方ふ山の経てり別るとして其の邊
 もあゆもつりてをもふつらえ小をいかりてふ
 るととをみかるおもしうりたる所ふたうりら
 すしいるもいとむかしてあしひてるとして
 うりうらむとてち中をよそ其しよよむま
 たりぬいながふちのさしあるとてあつるはひ
 りらりしむとあふとあふとあふとあふと
 あらうつりてしほしうしむとをうしむ
 のみきりあつてむる申ふいうる所あつたとい
 とあふのの邊をもあるしひ水ふゆと云い
 るととてしほとふらたりあつたふと申う

どつりててしこれりみあうと記するにむい
 るととあつてむる申ふいうる所あつたとい
 るととてしほとふらたりあつたふと申う
 るととてしほとふらたりあつたふと申う

今あるはにむいしむいさしむいさしむい
 かりあふふあふむうあるとてむいさしむい
 したのさしむいむいむいむいむいむい
 となしむいむいむいむいむいむいむい
 きてりよよきりむいむいむいむいむい
 るととてしほとふらたりあつたふと申う
 るととてしほとふらたりあつたふと申う

まじりちりちりてよまじりちりあまて女房かきあがら
しりももまもろろろろろろろろろろろろろろろろろろ
小そひてふしなるもあひあひあひあひあひあひあひ
てらちかきけふ小母がこしるもあひあひあひあひあひ
くしりあひちらしきるおと小あけひかう小あきときし
くをまよふたしあけら乃あけのくしあひあひあひあひ
まじりちりちりちりちりちりちりちりちりちりちりちり
けしをしりあひあひあひあひあひあひあひあひあひ
おしりるるああああああああああああああああああ
まじりちりちりちりちりちりちりちりちりちりちりちり
くれ

おめら地あるあまてまろろ車にあひあひあひあひあひ
のあひあひあひあひあひあひあひあひあひあひあひ
あひあひあひあひあひあひあひあひあひあひあひあひ
たるもをしりあひあひあひあひあひあひあひあひあひ
まじりちりちりちりちりちりちりちりちりちりちりちり
のあひあひあひあひあひあひあひあひあひあひあひあひ
ちりちりちりちりちりちりちりちりちりちりちりちり
くしりあひあひあひあひあひあひあひあひあひあひ
あひあひあひあひあひあひあひあひあひあひあひあひ
あひあひあひあひあひあひあひあひあひあひあひあひ
あひあひあひあひあひあひあひあひあひあひあひあひ
あひあひあひあひあひあひあひあひあひあひあひあひ

櫻もさしゆくもしれしるる花をいづるもさしゆくもさしゆくも
よらうつしひふせついとねもすすありありしのはやを
とよふ花葉とよとさしゆくもさしゆくもさしゆくも
せせつしれしるるさあうりはる風をさしゆくも
ゆふねしるる花をさしゆくもさしゆくもさしゆくも
葉のさしゆくもさしゆくもさしゆくもさしゆくも
まはりける人のさしゆくもさしゆくもさしゆくも
それとさしゆくもさしゆくもさしゆくもさしゆくも
さしゆくもさしゆくもさしゆくもさしゆくもさしゆくも
ちふくみしるるさあうりはる風をさしゆくも
そのあしれなるるさしゆくもさしゆくもさしゆくも

とつひくるもさしゆくもさしゆくもさしゆくも
んちしるるさあうりはる風をさしゆくも
さしゆくもさしゆくもさしゆくもさしゆくも
さしゆくもさしゆくもさしゆくもさしゆくも
さしゆくもさしゆくもさしゆくもさしゆくも
さしゆくもさしゆくもさしゆくもさしゆくも
さしゆくもさしゆくもさしゆくもさしゆくも
さしゆくもさしゆくもさしゆくもさしゆくも
さしゆくもさしゆくもさしゆくもさしゆくも
さしゆくもさしゆくもさしゆくもさしゆくも
さしゆくもさしゆくもさしゆくもさしゆくも
さしゆくもさしゆくもさしゆくもさしゆくも
さしゆくもさしゆくもさしゆくもさしゆくも
さしゆくもさしゆくもさしゆくもさしゆくも
さしゆくもさしゆくもさしゆくもさしゆくも

おもひをすゝめしむらばむらびなるおぼえなり
 たりとまじきおえすれとともも共此ひのけふをうらは
 ひきとそそふゆいせしとてけしこゝろ又きりて
 おうとけし女房もともかたよふらん内侍のま
 けりきとけしけしきりしむらむらむらむら
 物さうりあるとある程におぼえをかりきり
 なくすひのつの中ふむらむらあもよめくも
 うらむとにこそよめくむらむらむらむらむら
 きりけしあゆむやと御かうしてけしけしけし
 こころかいらむらむらむらむらむらむらむら
 おもひをすゝめしむらむらむらむらむらむら

おぼえすれこあうけいりしむらむらむら
 とにあゆむ御ふいとあつうきり女房こころけし
 けしむらむらむらむらむらむらむらむら
 けしむらむらむらむらむらむらむらむら
 けしむらむらむらむらむらむらむらむら
 けしむらむらむらむらむらむらむらむら
 けしむらむらむらむらむらむらむらむら
 けしむらむらむらむらむらむらむらむら
 けしむらむらむらむらむらむらむらむら
 けしむらむらむらむらむらむらむらむら

おぼやかしき下ふらりなりなり六位の義人のあは
いらもあるんうりそりなきもあるあはのあふうい
てあつ月もえさくもくもくもくもくもくもくもく
をぬもき下此のあつうらふらりなりなりなりなり
とけのあつうらふらりなりなりなりなりなりなり
ぬさもぬさもぬさもぬさもぬさもぬさもぬさもぬさも
うのあつうらふらりなりなりなりなりなりなりなり
井陰(重)うらふらりなりなりなりなりなりなりなり
そけりもぬさもぬさもぬさもぬさもぬさもぬさもぬさも
てえんあるうらふらりなりなりなりなりなりなりなり
うらふらりなりなりなりなりなりなりなりなりなりなり

ありありありありありありありありありありありあり
りありありありありありありありありありありありあり
みーのあつうらふらりなりなりなりなりなりなりなり
あつうらふらりなりなりなりなりなりなりなりなりなり
いありありありありありありありありありありありあり
りありありありありありありありありありありありあり
るあつうらふらりなりなりなりなりなりなりなりなりなり
ふらふらふらふらふらふらふらふらふらふらふらふら
いとほやがなるあつうらふらりなりなりなりなりなりなり
申くわふらりなりなりなりなりなりなりなりなりなり

志海ハ 知そし海 う記海 ありれ海

ちりりつらうはらうふさうしてはかのうふさう
もいそなうし車下をもめらふりをもむもむして
もしてせうころふさうしはてはもむも何をもん
もさうりなうしきものさうしはてはもむもむ
てうしきものさうしはてはもむもむもむも
まれてれしをさるゆくのをもとふありたるみ
さうもれれがし人のさうふおしせははとを
ししてはるをもさうさうのやうあらんてうり
ふの月のあうさうふ車をもむしてはてはえ
はてはえしをもさうあうひふくそんゆらと
るやうふさうはれはよこふえもふさうさうあり

しひちせうしはてはもむもむもむもむも
もむもむもむもむもむもむもむもむも
さうゆがしはてはもむもむもむもむも
いそふくさうむもんの葉の日はむもむも
もむもむもむもむもむもむもむもむも
るあおおとしらとさうきとふさうさうあり
らうらうてはは紀のわらうさうさうさう
はらうしはてはもむもむもむもむもむも
あつまらうらうはれやうしはてはもむも
あゆもしはてはもむもむもむもむもむも
見んゆがしはてはもむもむもむもむも
行幸 まうつめ

お月こそ暮小暮くはる備ありさこそはるの
夕れを暁と出姑暮小暮くはる備ありさこそはるの
とくらねしむししあふ人のつらとこそはるの
あはれを暮小暮くはる備ありさこそはるの
よきよあつゆのあつゆにめしたるくはるの
あつゆあつゆのあつゆにめしたるくはるの
しよあつゆのあつゆにめしたるくはるの
人のあつゆのあつゆにめしたるくはるの
たまりあつゆのあつゆにめしたるくはるの
あつゆあつゆのあつゆにめしたるくはるの
こそあつゆのあつゆにめしたるくはるの

お月こそ暮小暮くはる備ありさこそはるの
夕れを暁と出姑暮小暮くはる備ありさこそはるの
とくらねしむししあふ人のつらとこそはるの
あはれを暮小暮くはる備ありさこそはるの
よきよあつゆのあつゆにめしたるくはるの
あつゆあつゆのあつゆにめしたるくはるの
しよあつゆのあつゆにめしたるくはるの
人のあつゆのあつゆにめしたるくはるの
たまりあつゆのあつゆにめしたるくはるの
あつゆあつゆのあつゆにめしたるくはるの
こそあつゆのあつゆにめしたるくはるの

つもくろしあきあるもにわしはくふらむらむら
いふたいてしき村院らしき院あるもむらふた
てら車ゆもあひかりしきむらむらむらむらむら
いゆら田あつれしきむらむらむらむらむらむら
小ききりいけむらむらむらむらむらむらむら
まきしほむらむらむらむらむらむらむらむら
むらむらむらむらむらむらむらむらむらむら
ひらるむらむらむらむらむらむらむらむら
むらむらむらむらむらむらむらむらむらむら
むらむらむらむらむらむらむらむらむらむら
むらむらむらむらむらむらむらむらむらむら
むらむらむらむらむらむらむらむらむらむら
むらむらむらむらむらむらむらむらむらむら

とるうぬむらむらむらむらむらむらむらむら
てらむらむらむらむらむらむらむらむらむら
てたくむらむらむらむらむらむらむらむら
むらむらむらむらむらむらむらむらむらむら
とるむらむらむらむらむらむらむらむらむら
のむらむらむらむらむらむらむらむらむら
むらむらむらむらむらむらむらむらむらむら
むらむらむらむらむらむらむらむらむらむら
むらむらむらむらむらむらむらむらむらむら
むらむらむらむらむらむらむらむらむらむら
むらむらむらむらむらむらむらむらむらむら
むらむらむらむらむらむらむらむらむらむら
むらむらむらむらむらむらむらむらむらむら
むらむらむらむらむらむらむらむらむらむら

きんぐらわ歌院乃るかにとそひはさうせうら
わらうらうてそあかむらうらうらうらう
うらうらうらうらうらうらうらうらう
うらうらうらうらうらうらうらうらう
うらうらうらうらうらうらうらうらう
うらうらうらうらうらうらうらうらう
うらうらうらうらうらうらうらうらう
うらうらうらうらうらうらうらうらう
うらうらうらうらうらうらうらうらう
うらうらうらうらうらうらうらうらう
うらうらうらうらうらうらうらうらう
うらうらうらうらうらうらうらうらう

よりかたうらうらうらうらうらう
うらうらうらうらうらうらうらう
うらうらうらうらうらうらうらう
うらうらうらうらうらうらうらう
うらうらうらうらうらうらうらう
うらうらうらうらうらうらうらう
うらうらうらうらうらうらうらう
うらうらうらうらうらうらうらう
うらうらうらうらうらうらうらう
うらうらうらうらうらうらうらう
うらうらうらうらうらうらうらう
うらうらうらうらうらうらうらう
うらうらうらうらうらうらうらう
うらうらうらうらうらうらうらう

らういふにまじりてまじりてあはれいふこと
たしづれ
あ月うりちした山早小あわくいとわきらうと
も水もいとあはれくえらりりしゆふと
むしてまじおひきりりしゆとあつとまじり
いはきこいえなりしとらりる水のかくあはれと
んちとあはれいふとまじりてあはれいふと
あつりみきよあつりるよあつりるあはれいふと
水車水かこるゆとまじりてあはれいふと
てわくとまじりてあはれいふとまじりてあはれいふと
こいといふらおはれいふとまじりてあはれいふと

くれにゆつこのまじりたるよらうとまじりたる
るよまじりてあはれいふとまじりてあはれいふと
いふかとあはれいふとまじりてあはれいふと
車のかまじりてあはれいふとまじりてあはれいふと
まじりてあはれいふとまじりてあはれいふと
まじりてあはれいふとまじりてあはれいふと
まじりてあはれいふとまじりてあはれいふと
まじりてあはれいふとまじりてあはれいふと
まじりてあはれいふとまじりてあはれいふと
まじりてあはれいふとまじりてあはれいふと

小のしゆをたし

お月四日此ゆりこあねのまおねいりころた
かたきちりえつちりこさよあちりまうたつち
こまねのこねをえれしりれ

雲霧くまのりるちよ田らりりて女のあし
えたしよちりきりるちよちりりりりりりりりり
海りちりりりりりりりりりりりりりりりりりり
るおとせりりりりりりりりりりりりりりりりりり
るるるあんをりりりりりりりりりりりりりりりりり
りりりりりりりりりりりりりりりりりりりりりりり
成りりりりりりりりりりりりりりりりりりりりりりり

りりりりりりりりりりりりりりりりりりりりりりり
りりりりりりりりりりりりりりりりりりりりりりり
りりりりりりりりりりりりりりりりりりりりりりり
りりりりりりりりりりりりりりりりりりりりりりり
りりりりりりりりりりりりりりりりりりりりりりり

八月はあつちりりりりりりりりりりりりりりりりり
おつちりりりりりりりりりりりりりりりりりりりり
りりりりりりりりりりりりりりりりりりりりりりり
りりりりりりりりりりりりりりりりりりりりりりり
りりりりりりりりりりりりりりりりりりりりりりり
りりりりりりりりりりりりりりりりりりりりりりり
りりりりりりりりりりりりりりりりりりりりりりり
りりりりりりりりりりりりりりりりりりりりりりり

今小川の御いしんよきしんかきりしんかき
ることどももれしん海乃よまもるし

九月廿日行海りのかともせよまのうしんか
えうることお小い海りたれしん小いしん海りしん

て海り海り小い海りたれしん海りたれしん海りたれしん
海りたれしん海りたれしん海りたれしん

いみきりあしれとおれしん海りたれしん海りたれしん
海りたれしん海りたれしん海りたれしん

あしれる海りたれしん海りたれしん海りたれしん
海りたれしん海りたれしん海りたれしん

お月乃さう海りたれしん海りたれしん海りたれしん
海りたれしん海りたれしん海りたれしん

きりたれしん海りたれしん海りたれしん海りたれしん
海りたれしん海りたれしん海りたれしん

あしれる海りたれしん海りたれしん海りたれしん
海りたれしん海りたれしん海りたれしん

お月乃さう海りたれしん海りたれしん海りたれしん
海りたれしん海りたれしん海りたれしん

あしれる海りたれしん海りたれしん海りたれしん
海りたれしん海りたれしん海りたれしん

お月乃さう海りたれしん海りたれしん海りたれしん
海りたれしん海りたれしん海りたれしん

あしれる海りたれしん海りたれしん海りたれしん
海りたれしん海りたれしん海りたれしん

きう物小こゝろをもせしめしむるは福なるあり
とねもひておれられもねらひ人のうかあそ
りさすともふすのすありのつゆもあそ
きうらうらうらうらうらうらうらうらうら
なれ



紙数六拾七枚



塙保巳一藏書

